

地下2m！江戸前期の屋敷地



調査区全景

金沢城下町遺跡（小将町1番地点）は、石川県兼六駐車場の建て替えに伴い、発掘調査を行いました。西の高台には特別名勝兼六園、道路をはさんだ南側には江戸時代前期に造園された西田家庭園が所在します。調査区は駐車場南端で、上下2面の生活面を検出しました。各生活面では、敷地を区画するとみられる石列、樹木を植えた痕跡を検出したほか、上面では等間隔に並ぶ建物の礎石、池状のくぼみ、下面では桶をすえた土坑などを確認しました。遺物は江戸時代前期の陶磁器、土師器、瓦、漆器椀、箸などが出土しました。近世の絵図では「新堂形」「御花屋敷」などの記載があり、加賀藩関連の土地であったようですが、今回発見された遺構は、それ以前の屋敷地と考えられます。



桶の発掘状況



敷地区画の石列



唐津焼の皿



R1 発掘調査

こ ぶ い せ き こ ま つ し
古府シマ遺跡 [小松市]

古府シマ遺跡は、小松市街地東方約4km、梯川中流右岸に所在する石部神社（加賀国総社・府南社）の南～西方に位置します。総社周辺には古代末の加賀国府があったと考えられており、調査区周辺には「タチ」などの小字名が残っています。昨年度初めて梯川の築堤工事に伴い、古代加賀国府に関連した遺跡ではないかと考えられてきた本遺跡を調査した結果、平安時代から中世にかけての遺跡であることが明らかとなりました。

今年度の調査では、東側の調査区で平安時代から室町時代の遺構を検出し、西側の調査区では平安時代末の生活面を挟んで上層に鎌倉・室町時代の、下層に平安時代の遺構面が存在することを確認しました。上層では区画溝に囲まれた敷地で多数の掘立柱建物の柱穴や井戸、竪穴状遺構などを重複して検出し、連綿と集落が営まれていたことが分かりました。

遺物は加賀焼や越前焼、中世土師器皿とともに多くの焼けた切石なども出土しました。また、包含層などから下層に相当する平安時代末の遺物が大量に出土しており、その時期に非常に活発な活動があったと考えられます。遺物の中には、古代の瓦や緑・灰釉陶器、古代末の白磁なども多く含まれることから、国府との関連も想起され、残る下層の調査に期待が膨らみます。



調査地の空中写真（南東から）



東側の調査区完掘状況（南東から）



西側の調査区完掘状況（東から）



区画溝（北から）



中世土師器皿出土状況（北から）

R1 発掘調査

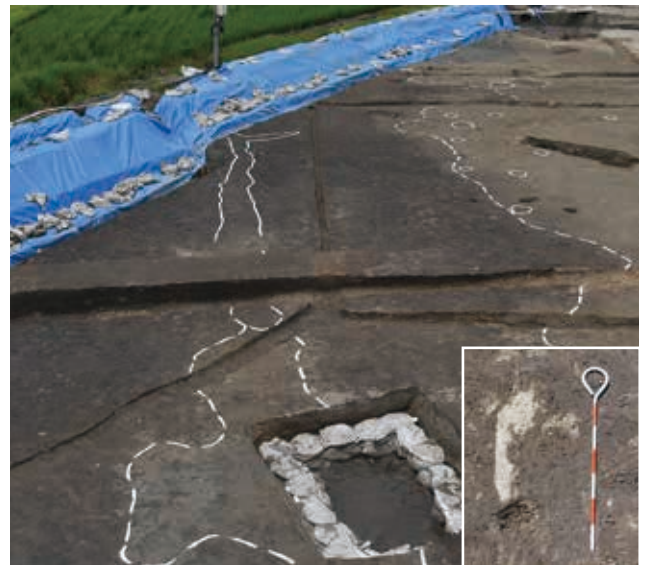
さか い 酒井バンドウマエ遺跡 [羽咋市]

酒井バンドウマエ遺跡は羽咋市北東部の酒井町にある集落遺跡で、碁石ヶ峰の西麓に形成された扇状地に所在し、南西側には寺境タブ遺跡が接しています。本遺跡の発掘調査は、一般国道159号改築（羽咋道路）に係るもので、平成27年度より4回に分けて実施され、今回は調査の最終年となりました。

今年の調査では、奈良・平安時代の集落跡と中世から近世にかけての水田跡などを確認しました。

上層では、川跡と中世から近世にかけての水田跡などを検出し、川などで削られた水田からは、畦畔と人の足跡を検出しました。足跡には粗い砂が入っており、洪水などの土砂で埋まったものと考えられます。下層では、奈良・平安時代の掘立柱建物を検出しました。規模は2×3間の側柱式建物で、柱穴の平面は隅丸方形、直径が70～80cm台のものが多く、内部に残っていた柱根は直径約20cmのものでした。

出土遺物には、奈良・平安時代の須恵器や土師器の琿や坏などの他に、中世の陶磁器などを確認しました。また、出土した土錘から、近くの川や邑知瀨などで、漁労活動を行っていたことも想定されます。



中世の水田跡（南から）

田面の足跡



掘立柱建物跡（北から）

建物の柱根



土師器琿の出土状況



道路予定地と調査区の空中写真（北から）

R1古代体験

古代体験学習講座『縄文土器づくり』



令和元年5月19日(日)に古代体験学習講座「縄文土器づくり」を開催し22名の参加がありました。最初に縄文時代の歴史や土器の特徴についてガイダンスをおこない、県内から出土した本物の縄文土器をモデルにしなが、土器づくりにチャレンジしてもらいました。モデルの土器には、金沢市笠舞A遺跡や中能登町徳前C遺跡など縄文中期の深鉢を用意しました。作り方は、最初に円盤状に底部を作り、次に粘土ひもを輪積みしながら少しずつ成形していき、成形後には縄や竹などで文様をつけていきました。

製作した土器は十分な乾燥をおこない、6月13日(木)に当センターの体験ひろばで野焼きしました。焚き火に土器を少しずつ近づけながら全体をあぶり、土器の表面が黄色から紫色に変化したところで、本焼きしました。最後には土器を横に寝かせて底をオキ火で焼き、橙色に焼きあがりました。



縄文土器の解説



縄文土器の成形



焼きあがった縄文土器

R1古代体験

古代体験学習講座『弥生土器づくり』



令和元年6月16日(日)に「弥生土器づくり」の学習講座を開き、26名の参加がありました。

最初のガイダンスでは、弥生時代の暮らしや土器の特徴を解説し、製作台に置いた県内出土の弥生土器をモデルとしなが、弥生土器づくりを体験してもらいました。体験の皆様は、金沢市戸水B遺跡の弥生中期の甕、羽咋市吉崎・次場遺跡の弥生後期の壺などを観察しながら、弥生土器の製作を進めました。

完成した弥生土器は、7月10日(水)に体験ひろばで野焼きしました。この野焼きは、縄文土器の開放型とは違い、弥生土器と燃料のワラなどを粘土で覆うことから、覆い型と呼ばれる野焼きです。土器の周りをワラと薪で包み、その上に粘土を塗ることで熱の拡散が抑えられ、土器の受ける熱量が非常に多くなるものです。当日は天候にもめぐまれ、しっかりと焼きあげることができました。



弥生土器の解説



弥生土器の文様付け



焼きあがった弥生土器

R1古代体験

古代体験ミニ講座 『ミニ縄文土器づくり』

昨年から始めたミニ講座は、体験が2時間程で終え、時間帯も午前と午後の選択ができる講座です。

7月14日(日)の「ミニ縄文土器づくり」では、円盤の底に粘土紐を積み上げ、内面をナデ、外面に縄文などを施して完成です。午前と午後に分かれた48名の体験者は、波状に整えた口縁、施文具による文様を付けることで、ミニとはいえ立派な縄文土器を仕上げました。



粘土の輪積み成形



道具で文様付け

古代体験ミニ講座 『藍の生葉染め』

8月4日(日)の講座では、藍の成長の遅れを心配しましたが、予想を超える生葉を確保することができました。午前26名、午後23名の体験者は、まず、絹の布に割り箸や豆などを使い、模様を考えながら輪ゴムで絞りました。次に、藍の生葉を絞った染液を作り、そこに酢を加えて浸すこと約10分。最後に、輪ゴムを外して水洗いをすると模様があらわれ、広場に干して出来上がりです。作品を手にした参加者からは、「また、来年もしたい」との声も聞かれました。



体験農園で藍の摘み取り



染液の絞り出し



作品の出来上がり

古代体験ミニ講座 『古墳模型づくり』

夏休み後半の8月25日(日)に能登を代表する王墓である「中能登町雨の宮1号墳」をモデルとして、「古墳模型づくり」を開催しました。ガイダンスの後、古墳のパーツであるパネルを積み重ね、斜面に粘土を塗り込んで成形です。午前20名、午後28名の体験者は、粘土に小石をはめ込んで葺石を表現しながら、古墳の形状と構築技術を知る機会となりました。



パーツのパネルを重ねる



墳丘斜面を葺石で固めます



作品の出来上がり

第 21 回いしかわの発掘展 『小さなもの 不思議なカタチ』

遺跡から出土するものには、よく見る土器や石器とは異なるとても小さなもの、不思議な形の変わったものなどが見られます。それらを取り上げ、当時の人々の思いや活動の様子を紹介する展示を行い、令和元年7月13日～9月1日の開催期間中4,686人の方が来館されました。

「不思議な形・不思議なもの」のコーナーでは、用途や使い方がわかりにくい、変わった形のものなどを紹介しました。出土品の名前の付け方や、同じ形でも時代によって用途がかわるものなど、見て考えてもらう展示としました。「玉－古代のたからもの－」では、縄文時代以来様々な形に作られた玉類を取り上げ、美しさとともに製作技術や石材の獲得、製品の流通など、背後に見られる人々の動きについて紹介しました。^{りよくしよくぎょうかいがん いしのこ}緑色凝灰岩に石鋸で溝を切る体験コーナーでは、子どもたちが懸命に挑戦する姿が見られ、会期終了時にはかなり深い溝ができていました。「小さく写す」では、小さくかたどられた生き物や土器、武器、船などを取り上げ、小さく作る意味やその背後にある人々の思いを紹介し、ミニチュア土器を並べた水辺の祭祀のコーナーで当時の雰囲気を感じてもらいました。「江戸時代の小さな遊び心」では箱庭道具、炊事道具、玩具などのミニチュア製品を展示し、当時の大人や子どもがどのように遊びを楽しんだのか紹介しました。たくさんのミニチュアに多くの方が見入っていました。これまでの企画展でも最も多い1000点もの出土品が並ぶ展示となりました。



会場の様子



不思議な形・不思議なもの



玉のコーナー
(管玉の首飾り)



玉のコーナー (八日市地方遺跡の出土品)



溝切りの体験



溝切りの痕跡



水辺の祭祀



見学の様子



江戸時代のミニチュア製品

R1 古代体験

第21回 『古代体験まつり』

令和元年10月6日(日)に第21回古代体験まつりを開催し、家族連れを中心とする約980人の来場者でにぎわいました。今回も人気の「縄文弓矢」や「古代米試食」など20の体験コーナーを設けました。

特別イベントは「金沢百萬石太鼓」による和太鼓演奏で、力強い音が会場に鳴り響きました。演奏後は来場者もステージでの太鼓打ちに参加し、演奏者との交流が行われました。また、まつり庭では「縄文布アンギン」など数年ぶりに復活したメニューもあり、シカやイノシシの肉が入った「縄文鍋試食」は、おいしいと好評でした。どの体験コーナーも終日にぎわいがみられ、「スタンプラリー」、「火おこし」、「まが玉づくり」は不動の人気でした。



和太鼓演奏



まいぶん〇×クイズ



スタンプラリー



まが玉づくり



縄文布アンギン



組みひもづくり



縄文鍋試食



古代米試食



サトイモ収穫



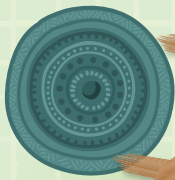
縄文弓矢



発掘体験



古代音体験



まいぶん日誌

令和元年(2019)
7月 ~ 10月



7月

「人物はにわづくり」

ああ、かっこいいはにわ
ついでに……



8月

人物はにわの巻締めです



ズラリと並んだ令和のはにわ達
みんなキレイに焼き上がりました



はにわの展示です

粘土ひもがとれたらこまゆ
につけて……完成!



しっかり
焼きました!



今年も多くの方が参加されました

8月20日は「まいぶん はにわの日」



はにわと一緒に
記念写真

限定ストラップを
プレゼント!

県内出土の土器の見学です



まいぶん・
バックヤードツアー

親子の発掘体験教室①
(小松市古府シマ遺跡)



暑かったけど、頑張りました!

須恵器づくりです



県内の出土品を
参考に作ります

小さくて、不思議だな?



「いしかわの発掘展
小さなもの 不思議なカタチ」



縄文人のワザに
チャレンジ!

古代米の試食
たくさんの方が並びました



古代体験まつり

9月

まいぶん博士チャレンジ講座



縄文住居を体感! ワ、広い!!

親子の発掘体験教室②
(七尾市田岸遺跡)



遺物整理体験です

10月

古代米の炊飯です



炊けたかな?

土器の拓本に挑戦!